

一 漢字要覽（文部省国語調査委員会）

漢字について、その一般常識（同書の凡例によれば、専門の学者を対象としたものでなく、中等教育程度において必要な範囲）を知らせる目的で編纂されたものである。全体は、漢字の創製及び構造、漢字の変遷及び字体、字音及び字訓、熟字、本邦仮借字、本邦製作字、本邦転用字の七章から成る。

字体については、「第二 漢字ノ変遷及ビ字体」で、古文、ちぎ縮文、てん小篆、へん隸書、ほん八分、しやう章草、ぎやう行書、きやう楷書、そう草書の九種について変遷を略説した後、別体と正体とを区別して、別体を用いて妨げないもの（第一類）と正体を用いるべきもの（第二類）とに分けて示している。正体とは説文、干祿字書、康熙字典等で正字として用いているものであり、別体とは古文、省字、通用字、俗字等と呼ばれるもので、普通、正字としていないものである。第一類（以下、括弧内が正体である。）には、仏（佛）、万（萬）、号（號）、乱（亂）、虫（蟲）などと、証（證）、医（醫）などのように別体と正体とが本来別字であるけれども、通用が広くかつ久しいものであるから、用いて妨げないとされるものなどが挙げられている。第二類（以下、別体は省略。）には、美、局、究、京、幸などが挙げられている。これら第二類のものは、正体と別体とを比較すると、正体の方がかえって字画が簡易であるから用いるのに便利であろうとされている。

なお、収録に当たって原本（B5判、国立国会図書館蔵本）を拡大（一一五％）した。明治四十一年五月二十四日発行（国定教科書共同販売所）。

國語調查委員會編纂

漢字要覽

株式會社
國定教科書共同販賣所

正誤表				
七〇	五二	全	三九	頁
一一	一一	全	六	行
もみじ。	奥 ^ク 行 ^キ	越 ^ク 度	越 ^ク 後前	誤
もみぢ。	役 ^ク 場 ^ク	越 ^ク 度	越 ^ク 後前	正

漢字要覽

凡 例

一本書ハ、漢字ニ關スル大體ノコトヲ知ラシムルヲ以テ目的トシテ編纂セリ。

一本書ハ、現今ノ中等教育程度ニ於テ必要ナル範圍ニ止リ、固ヨリ専門學者研究ノ爲メニ著シタルモノニ非ザレバ、成ルベク簡易ヲ主トシテ、詳密ナル議論ハ、總ベテ之ヲ避ケタリ。

一本書ノ例ニ舉ゲタル文字言語ハ、總ベテ普通ニ用キルモノニ就キテ大概ヲ示シ、ソノ奇僻ニ涉ルモノハ之ヲ取ラズ。但シ六書ノ説明、及ビ文字ノ變遷、ソノ他、已ムヲ得ザル場合ニ於テハ、三四ノ特例アリ。

一本書ノ編纂ニ關シテ、材料ニ供セシ書ハ、尠カラズト雖モ、ソノ

中、特ニ初學ノ參考ニ必要ナルモノ數種ヲ擇ビテ、每章ノ末ニ
附録セリ。

漢字要覽

目次

第一	漢字ノ創製及ビ構造	一
第二	漢字ノ變遷及ビ字體	一七
第三	字音及ビ字訓	三五
第四	熟字	五三
第五	本邦假借字	六〇
第六	本邦製作字	六八
第七	本邦轉用字	七九

